

設計者

図版提供:
『滋賀県庁舎改築
記念誌』(1941
年)
『佐藤功一博士』
(1953年)



佐藤 功一

明治11年、栃木県生まれ。
左右対称や立面を基部・主階・屋階の3層構成とする歴史的な様式を踏まえながら、細かな装飾は単純化し、曲面はあまり使わずに建物のエッジを強調する手法をとります。
戦前に群馬・宮城・栃木・滋賀・福島の庁舎を設計しました。



國枝 博

明治12年、岐阜県生まれ。
窓回りや軒、天井等に、微細な装飾を施す特徴があります。

本館の特徴



数々の装飾



自然光による採光を目的とした
ステンドグラス



階段壁面の信楽焼の
(テラコッタ)装飾

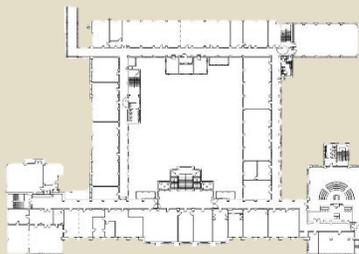


玄関ホール

貴賓室
※現在は会議室

知事室

議場



滋賀県庁舎本館は「口の字」型の平面を採用。執務室は南面または東面に配置し、廊下は部分的に外周側に寄せ、居住性や利便性を考えた合理的な手法がとられています。



登録有形文化財

滋賀県庁舎本館

滋賀県庁舎本館は、昭和14年5月に建設され、平成26年12月19日に国の登録有形文化財に登録されています。正面の全長は106mと戦前に建てられた府県庁舎の中では最大です。

佐藤功一と國枝博が共同設計した庁舎で、中央には塔屋がそびえ、左右に事務室、正面玄関には大きく車寄せを配したその容姿は、ルネサンス様式らしい格調高い存在感を放っており、本県を代表する近代建築の一つとされています。



年 代 昭和14(1939)年竣工
設 計 佐藤功一、國枝博
施 工 株式会社大林組
構造形式 鉄筋コンクリート造
地上4階地下1階建 塔屋付
高さ20.0m(4階屋根まで)
高さ44.6m(塔屋頂部まで)
横幅106.4m
延床面積16,472.30㎡

参考 県庁舎等の概況



■東館
S58竣工(築42) 高さ37.5m



■新館
S49竣工(築50) 高さ35.7m



■新新館
S62竣工(築37) 高さ35m



■北新館
S49竣工(築50) 高さ23.8m

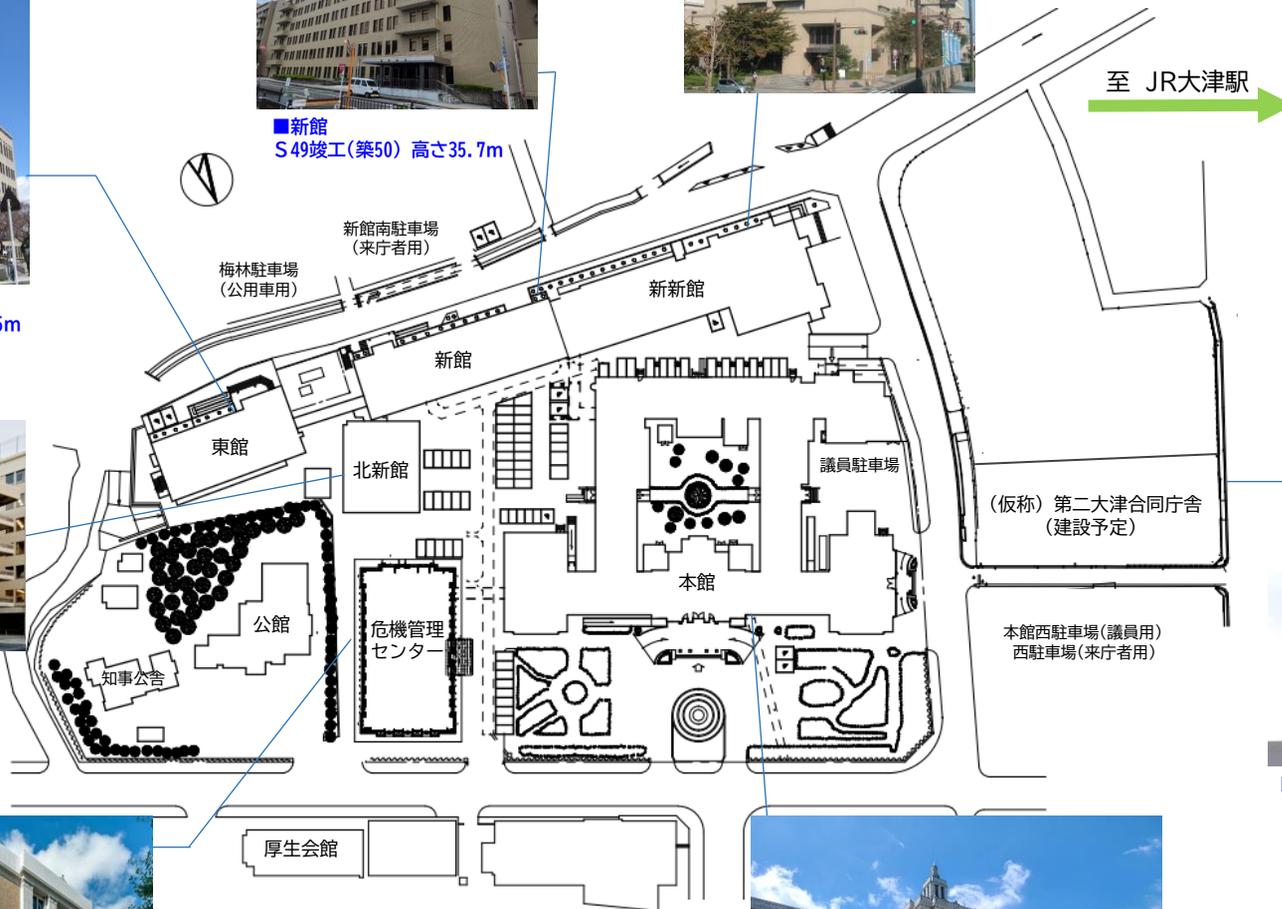


■危機管理センター
H27竣工(築9) 高さ30.9m



国の登録有形文化財 (H26登録)

■本館
S14竣工(文化財登録部分)(築86) 高さ39m



(仮称) 第二大津合同庁舎
(建設予定)



■(仮称)第二大津合同庁舎
R9 供用開始予定 高さ31m